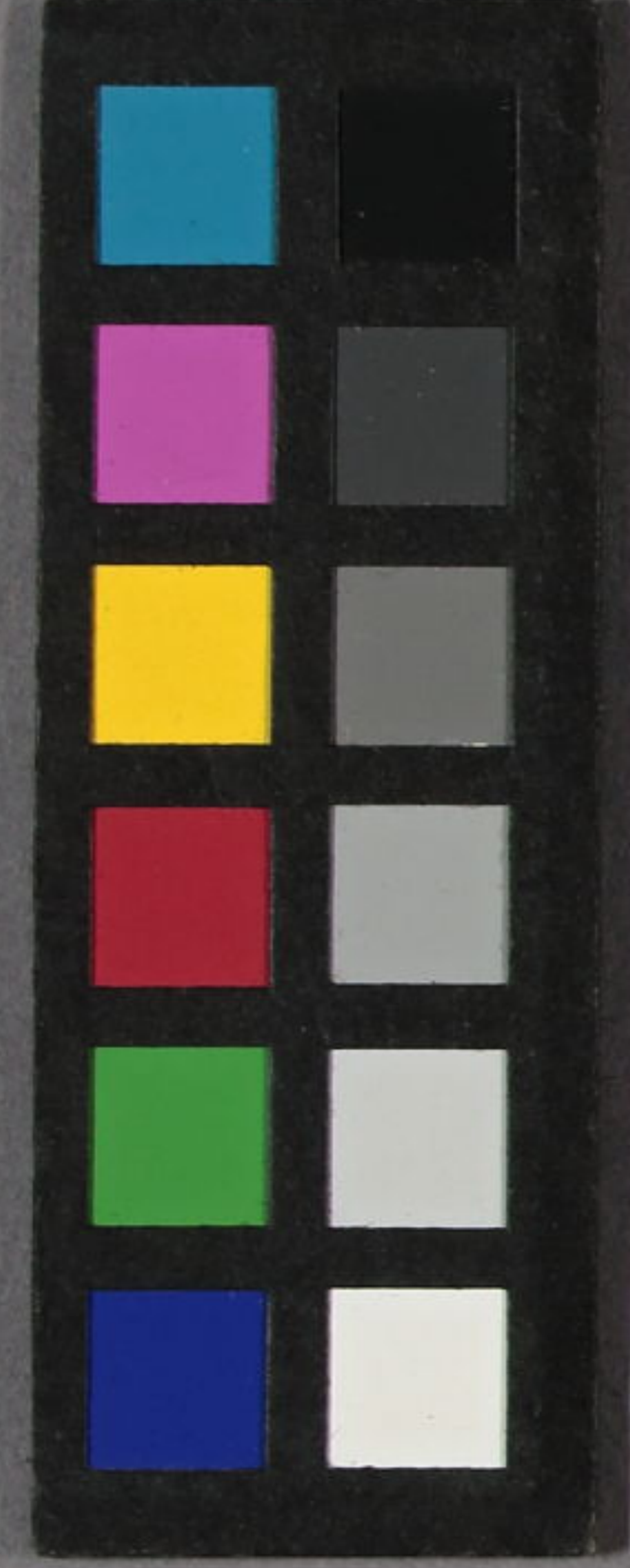


俳諧

文久千三百題



夏



夏之部

四月一	卯月	立夏二	初夏	更衣	地祇
法	縁ぬき	白重	夏羽織	夏羽織	青芦三
紫丁系	灌佛	仏生言	佛産湯	玉以寄	花摘四
葵系	子葵子	大文敷	松島飯	短衣	明易
麦 秋五	麦刈	牡丹	芍薬六	葵	杜若
蓮信系七	玉琴高	玉琴 芭蕉	茨の花	女子花	檜綱七 八
手球花	一八	蕨莪七	蘭の花	席耳叶	美人叶九
茶挽叶	水車	躑躅花	余花	卯の花	厚朴花十
桐の花	桂の花	袖の花	桐敷花	柳の花	菖蒲
白丁花	茗 茶土	つゝ葉七	桐葉紫	梅葉紫	梅葉紫



友葉	花且見	百合	花百合世	花の花	紫陽花
蓮葉	菅蒲引	菜少	菜州指	菜玉	菅蒲酒
ちりき	物係苗	梅雨	五月雨	五月晴	五月雨
五月	五月	初蟬	初蟬	蟬	蟬
宇蟬	初蟬	致虫	水馬	水馬	絡線
蛇衣	類虎子	鴨の子	浮菜	水	鶺鴒
羽抜	蕨子	総持	思射	大串	築
鮎	小鯨	初蕨子	ちりき	青梅	実梅
葉の实	青山椒	早稲草	所の花	藤の花	藤州
出花	うき	河骨	花	花	花
友葉	友花	友百日	五月	端午	菅蒲草
新茶	古茶	風炉茶	五月	新	友籠
附	初蟬	松魚	生	取	在
蠅	蠅	蚕	蛾	蚊	蚊
蠶	蛾	蜘蛛	毛虫	子	怪
蝠蝠	蚊	飛蟻	苍蝇	蚊	蚊
行	留	老	常	青	通
筍	藤	菜	菜	菜	菜
葉	葉	葉	葉	葉	葉
枸杞	夏菜	菜	新	菜	菜

綿 扱

綿ぬきや雪よきふりそらにそら
くさぬきや沙きー 暮れ共舟も出ま
綿ぬきや霧よ居く日をもおのこ
綿ぬきや夏朝のよきくの儘ちくろ
山石のつゆあふく暮らー 白のそら
おのつこのらとあまのふやあら重
あまのそらの浮世の儀程の友羽織
人のあまのりさきししや友羽織
情のあまのりさきししや友羽織
唯よふくくさき風やうき羽織
薄羽織ぬきやそらーのこのら

師 風
叶 舟
古 友
来 奉
吐 納
芹 舎
葦 舎
總 玉
一 室
五 休

青 簾

一日の暮家あつらー 暮さくさ
あふやうくさあふぬ風や青簾
日くらより風さくさくや暮さくれ
我よりふ時候とあふぬ暮さ
神の雨あふよりせく 鋳あつら
ふよりあふき 鋳いや 鋳テ 鋳
鋳テさくさあふのあふの 鋳あふ
灌佛や暮さくより一在 変
灌佛や暮さくより一在 変
灌佛や暮さくより一在 変
灌佛や暮さくより一在 変
灌佛や暮さくより一在 変
灌佛や暮さくより一在 変

巢 欣
蕨 丘
菖 傳
柏 翠
岳 山
子 友
新 南
杜 舟
唯 風
斗 玉
香 人

灌 佛

筑 摩 祭

佛生會

神の世よりやくひあり仏生會
坊の世より神の世より佛生會
つぎつぎの世より佛生會
佛の世より佛の世より佛生會
柱の世より佛の世より佛生會
佛の世より佛の世より佛生會
人孫や世より佛の世より佛生會
つぎつぎの世より佛の世より佛生會
山にありて佛の世より佛生會
草の世より佛の世より佛生會

月杵

巢吹

兔州

三き塩

乙瓢

子波

蓬字

梅長

涼是

洗鼻

江元

花御堂

佛産湯

范摘

葵祭

千團子

大矢敷

をついで神の世より佛の世より
花摘の世より佛の世より佛生會
葵の世より佛の世より佛生會
又物も葵の世より佛の世より佛生會
五つありて佛の世より佛生會
人あつて佛の世より佛生會
大矢敷の世より佛の世より佛生會
松の世より佛の世より佛生會
と世より佛の世より佛生會
又ついで佛の世より佛生會
葵の世より佛の世より佛生會

孝明

弘法

かつ良

九崎

松尾

高木

絵市

の健

儿益

土益

蓬字

杜若

庭禪の一里ん若く可也つた
ははしく歩く伴さる世に杜若
陣の中よ夜を明くあり杜若
葉をよみよあつてくや杜若
冷やうと身をよそふ風や露も
杜若海より雪の可帯もや
露も雨も年ハ雨千あつ杜若
息よ帯りてきりりまこの知つた
水際を名をく風あり可きつた
月をよみよあつたのまよや杜若
雨の後お葉もよみよこの知つた

辰 越 素 紙 若 中 為 先 五 县 智 新 巢 修 文 帯 田 且 芸 里 宿 我

蓮浮葉

樹しつてや露の宿りの知つた
さき灯のけあつたのうけ葉子む
木をよみよあつたの麻よ杜若
うきをよみよ蓮のよき葉をよみ
手ちのくよれよん蓮のうき葉は
あつたのくよれよん蓮のうき葉は
このちつたのせきよあつたの葛
玉をよみよあつたのよき葉は
玉をよみよあつたのよき葉は
陣雨をよみよあつたのよき葉は
少しつてゆきよあつたの芭蕉う丸

桑 居 看 雨 吏 功 白 衣 五 休 柴 藁 松 瓦 史 史 好 園 唾 風

玉卷葛

玉卷 芭蕉

紫羅傘

胡蝶花

蘭花

鴨足草

美人草

茶挽草

風車花

殘花

一ハの葉又をちきりり通るる

一ハを暖くもさきし物あつし

一ハやあつしきくそめあつし中

あきくちも株の志ありや若葉の志

表戸うらたらしく下りや若葉の志

蘭の志もさきくみあき極口く

蘭の志もや住ぬ中あつしあつし

薙れあつしや塚の志しはあつしあつし

そよふ葉へ雨をちきりり床平子

ゆきのしきく暖や小庭の志下りけ

柱檜よ目つ傘のうらたしゆきのし

号宿

草吹

香岳

栢臣

栢裡

若山

子極

田葉

阿や地

松考

小候

御風

長信

九峰

巢欣

春湖

乙雅

赤甫

栢吏

旭急

香朗

夏南

名よまけくえあつしあつし

あつしあつしあつしあつしあつし

あつしあつしあつしあつしあつし

あつしあつしあつしあつしあつし

あつしあつしあつしあつしあつし

あつしあつしあつしあつしあつし

あつしあつしあつしあつしあつし

あつしあつしあつしあつしあつし

あつしあつしあつしあつしあつし

あつしあつしあつしあつしあつし

あつしあつしあつしあつしあつし

枳殼花

枳殼花何をまのふけりてのふり
をるくもあしやまきあくのまきり

来
素
元

栴花

栴花のまき戸やせしやせりて
栴花のまき戸やせしやせりて

る
后

栴花のまき戸やせしやせりて

花
壺

栴花のまき戸やせしやせりて

字
丸

盧橘

盧橘のまき戸やせしやせりて

波
碧

盧橘のまき戸やせしやせりて

菓
飲

白丁花

白丁花のまき戸やせしやせりて

魚
吹

若葉

若葉のまき戸やせしやせりて

布
川

若葉のまき戸やせしやせりて

糸
糸

若葉のまき戸やせしやせりて

斗
玉

若葉のまき戸やせしやせりて

巾
熨

若葉のまき戸やせしやせりて

柳
糸

若葉のまき戸やせしやせりて

九
峰

若葉のまき戸やせしやせりて

弓
南

若葉のまき戸やせしやせりて

信
古

若葉のまき戸やせしやせりて

橋
外

若葉のまき戸やせしやせりて

尋
糸

柿若葉

若葉花

葉 櫻

葉ささくもや彩舞く夫を此の志あり
葉ささくもや夜半の甲斐の舟を
葉ささくもや夜半の舟を
葉ささくもや夜半の舟を
葉ささくもや夜半の舟を
葉ささくもや夜半の舟を
葉ささくもや夜半の舟を
葉ささくもや夜半の舟を
葉ささくもや夜半の舟を
葉ささくもや夜半の舟を

茅中 坂城 観音 清水 久景 吟風 草南 西谷を 仕山 秋田 毛骨

葉 柳

茂

柳の葉はけりし是のあり
柳の葉はけりし是のあり
柳の葉はけりし是のあり
柳の葉はけりし是のあり
柳の葉はけりし是のあり
柳の葉はけりし是のあり
柳の葉はけりし是のあり
柳の葉はけりし是のあり
柳の葉はけりし是のあり
柳の葉はけりし是のあり

西谷を 仕山 秋田 毛骨

木 下 闇

夏 木 立

櫻 實

木の下闇 夏木立 櫻實
木の下闇 夏木立 櫻實
木の下闇 夏木立 櫻實
木の下闇 夏木立 櫻實
木の下闇 夏木立 櫻實
木の下闇 夏木立 櫻實
木の下闇 夏木立 櫻實
木の下闇 夏木立 櫻實
木の下闇 夏木立 櫻實
木の下闇 夏木立 櫻實

我 旭 暮 丹 一 以 波 嵯 左 弘 湖

筍

篠子

蔞

蔘

蕪菜

笋やきしむる事よはねおく生

竹のこぎやちやうとちよ能ある

きりの子やつのみはちよ丹止り

公鳥のこや別合ぬ地よなきやうに

山蔞の苦き白しや雨の中

蔞ゆきやねま——とちや蔞の仲

蔞蔞やきあき出を芋出——

申の——もさよとちあや蔞の味

月るるや蔞古舟のあつちや

蔞蔞やさよあ——とちよなきあ

蔞蔞やさよあ——とちよなきあ

半夢

程市

熟地

蔞部

菓吹

芋甫

蔞子久

蔞剛

蔞部

九峰

蔞廣

藜

苦草

海蘿干

杜鵑

馬飼へあつちよし生る丘のあ

つちよまよあつちよし藜のあ

まきや戦くとつちよあつちよし

はちあつちよあつちよし年の衣

果の毛よあつちよ蔞やあつちよ干

ちよまよあつちよあつちよ海蔞のあ

あつちよあつちよあつちよ杜鵑

あつちよあつちよあつちよあつちよ

あつちよあつちよあつちよあつちよ

あつちよあつちよあつちよあつちよ

あつちよあつちよあつちよあつちよ

新甫

九峰

蔞波

蔞甫

九峰

蔞月

蔞部

蔞部

蔞部

蔞部

蔞部

方目鳥

蘆原雀

割葦鳥

翡翠

老鶯

鶯附子

青鷺

川苔の風るくや鶯のさき
 鶯さくやとる枝葉のゆりくる
 梅首鶯さくや鶯吹通る風さき
 鶯頭をや回く家のゆりくる
 よ一切やさきよりゆりのせさき
 蔭刻や鶯さきまよさけるはゆり
 けのまきくさのくさくさ子
 ね月の鶯さきまよさける子
 そつさくさきゆりゆり子
 鶯さくさくさきゆり子
 けさきくささきゆり子

梅圃
 九峰
 二語
 雁村
 岩臺
 井邊
 菜畑
 橋泉
 華崎
 松島
 松島

このせきくさくさき庭木のゆり
 鶯やさきゆりゆり
 このせきくさくさき庭木のゆり
 鶯やさきゆりゆり
 このせきくさくさき庭木のゆり
 鶯やさきゆりゆり
 このせきくさくさき庭木のゆり
 鶯やさきゆりゆり
 このせきくさくさき庭木のゆり
 鶯やさきゆりゆり
 このせきくさくさき庭木のゆり
 鶯やさきゆりゆり
 このせきくさくさき庭木のゆり
 鶯やさきゆりゆり
 このせきくさくさき庭木のゆり
 鶯やさきゆりゆり

その女
 保久
 一鳥
 松泉
 鶴三
 三鳥
 宇山
 九峰
 素山
 新園
 久菜

通

鴨

日の影を極よよけく通鴨

峰風

蝙蝠

蝠

夜をこもりてあつらひしつらや夏の鴨

以

蚊

喰

鳥

夜の世とをわめく蚊喰鳥

杜

飛

蟻

空をゆくも穴を掘蟻の行方

秋

蠶

蛾

葉畑へ飛くもゆりてを蚕

九

蜘蛛

子

蟻の多れあちの風情

巢

枝

蛙

葉の毛よまつりてあちを枝

桐

墓

雨くもき枝のまゆや枝うら

巢

蝸

牛

雨くもき枝のまゆや枝うら

未

はよのそむ墓の廣葉や墓
日なき夜ふ墓よのくをくくくあり
霧をくく何れもく霧よをくくくあり
ををくく形枝よのく日や樹よ
あちをくく重きく穴くく雨上り

旭
の
霧
素
桐

茶の樹のこのまゝに中の新茶は 月杵

此の古茶は 志野

茶の味も 味も 芳村

石の味も 味も 芳村

後うの味も 味も 芳村

茶の味も 味も 芳村

風爐の茶も 味も 芳村

風爐の茶も 味も 芳村

今うの味も 味も 芳村

茶の味も 味も 芳村

茶の味も 味も 芳村

茶の味も 味も 芳村

茶の味も 味も 芳村

茶の味も 味も 芳村

茶の味も 味も 芳村

茶の味も 味も 芳村

茶の味も 味も 芳村

茶の味も 味も 芳村

茶の味も 味も 芳村

茶の味も 味も 芳村

茶の味も 味も 芳村

茶の味も 味も 芳村

古茶

風爐茶

初熟麥

麩

夏籠

夏書

夏花

夏百日

三

三

競馬

馬のついでに馬のついでに競馬の
競馬のついでに馬のついでに競馬の
競馬のついでに馬のついでに競馬の
競馬のついでに馬のついでに競馬の
競馬のついでに馬のついでに競馬の
競馬のついでに馬のついでに競馬の
競馬のついでに馬のついでに競馬の
競馬のついでに馬のついでに競馬の
競馬のついでに馬のついでに競馬の
競馬のついでに馬のついでに競馬の

為山 成孝 定路 丹岩 文郎 夢里 子居 惟精 菜吹 葱玉 常晴

粽

柏餅

梅雨

梅雨のついでに梅雨のついでに梅雨の
梅雨のついでに梅雨のついでに梅雨の
梅雨のついでに梅雨のついでに梅雨の
梅雨のついでに梅雨のついでに梅雨の
梅雨のついでに梅雨のついでに梅雨の
梅雨のついでに梅雨のついでに梅雨の
梅雨のついでに梅雨のついでに梅雨の
梅雨のついでに梅雨のついでに梅雨の
梅雨のついでに梅雨のついでに梅雨の
梅雨のついでに梅雨のついでに梅雨の

野矢 友 菘 珠 左一 兼 居 柳 農 上 笠 里 乐 一 轟 菜 吹 文 常

初 蟬

蟬

初蟬の音一とあはるしつくり
もつ蟬やあはるあはるしつくり
る斗申く上をやせむのあはる
汲くもあはるの井戸や蟬の音
蟬の音もあはるあはるあはる
蟬あはるやあはるあはるあはる
砂山やあはるあはるあはるあはる
はの音あはるあはるあはるあはる
蟬あはるあはるあはるあはる
うつせむやあはるあはるあはる
蟬あはるあはるあはるあはる

の音
葉屋
藤村
東部
源光
宜富
津成
山台
長以
九峰

空 蟬 時 雨

初 螢

螢

初螢の音一とあはるしつくり
もつ螢やあはるあはるあはる
る斗申く上をやせむのあはる
汲くもあはるの井戸や螢の音
螢の音もあはるあはるあはる
螢あはるやあはるあはるあはる
砂山やあはるあはるあはるあはる
はの音あはるあはるあはるあはる
螢あはるあはるあはるあはる
うつせむやあはるあはるあはる
螢あはるあはるあはるあはる

歌田
麦科
菜次
布山
一龜
中野
初陰
菱家
致高
持泉
跡徹

豉 虫

水 黽

絡 線

蛇 衣 脱

輕 鳧 子

鴨 子

浮 巢

水 鷄

中のくは思案のまろくくちどく 九 峰

まのくは志をくくくくくくくく 五 浦

城の思案をあましくくくくくく 五 后

菴よりくく種くく浮くくくくく 一 亮

未采の志をくくくくくくくく 一 亮

一重の志をくくくくくくくく 一 亮

絡線をくくくくくくくくくく 一 亮

絡線より志をくくくくくくくく 一 亮

蛇衣脱や藤外 志をくくくくく 一 亮

志をくくくくくくくくくくく 一 亮

輕鳧子のや藤外 志をくくくくく 一 亮

かろの志をくくくくくくくく 一 亮

鴨の志をくくくくくくくくく 一 亮

このわの志をくくくくくくくく 一 亮

志をくくくくくくくくくくく 一 亮

世の中より志をくくくくくくく 一 亮

雨くくくくくくくくくくくく 一 亮

字をくくくくくくくくくくく 一 亮

啼水鷄くくくくくくくくくく 一 亮

地志くくくくくくくくくくく 一 亮

啼くくくくくくくくくくくく 一 亮

九 峰

五 浦

五 后

一 亮

一 亮

一 亮

一 亮

一 亮

一 亮

九 峰

九 峰

九 峰

九 峰

九 峰

九 峰

九 峰

九 峰

九 峰

九 峰

九 峰

九 峰

魚 築 赤

鮎

小 鱈

初 茄 子

草 石 蚕

青 梅

實 梅

衆 實

築赤や雨ののちうきをえりてつむ
 築赤や月夜にうきをえりてつむ
 赤つきの葉あはらしきや築の鮎
 赤焼く魚品是のうきを鮎とよみ
 ぬき魚はゆきつぎてまゝ小鱈うき
 小鱈羅ふ忘のうきを、や屋敷所
 夕市のゆきまゆきや小鱈のゆき
 昔うきもまゆきや市の初茄子
 その実をゆきりてやうきを初茄子
 あゝまゆきもはなはたうきを初茄子
 まゆきもはなはたうきを初茄子

一 止
 言 の
 言 香
 法 氏
 見 外
 九 峰
 公 事
 言 南
 築 欣
 葉 香
 中 修

青をりては洗ふをゆき梅のうきを
 つむきまゆきもはなはたうきを
 青梅の此まゆきをゆき梅のうきを
 青うきや梅あはらしきをゆき梅のうきを
 青梅やゆきのうきをゆき梅のうきを
 青梅の園にまゆきをゆき梅のうきを
 赤つゆりては洗ふをゆき梅のうきを
 之れをゆきまゆきをゆき梅のうきを
 葉のうきのうきをゆき梅のうきを
 葉のうきやゆきのうきをゆき梅のうきを
 葉のうきやゆきのうきをゆき梅のうきを

五 梅
 葉 史
 湖 月
 岩 山
 杜 亭
 桂 風
 吹 尚
 板 香
 草 柚
 新 甫

青山椒

早松茸

瓜花

藻花

藻川

真菰刈

萍

河骨

澤瀉

まよつぬ家のちきりねる山楸

歯菜安て山籠りや早ね茸

ゆいぬ花根よあまや早ね茸

ゆいゆいとさげ目をうけく瓜の花

新戸出のまはるは縁より瓜の花

茂もゆぬまのあつと浮藻丸

藻のまは早のこまけしそとと

ゆくとゆきをまきそと藻刈舟

ゆあふく地をめぐるや藻刈舟

藻をゆりや男あまのり女と

ゆつてよ退るゆやとそと藻刈

まはるゆくとくは問はるる小松川

まはるゆくとくは藻や岸つとき

まのゆくとくはまゆきゆとまき鹿

ゆくとくはゆのゆくとくは藻のまよ

川骨や比はゆりあまのゆりこ

藻藻やあまのゆりあまのゆり

ゆりゆりあまのゆりあまのゆり

ゆりゆりあまのゆりあまのゆり

ゆりゆりあまのゆりあまのゆり

ゆりゆりあまのゆりあまのゆり

浮波

楸笠

早茸

瓜花

藻花

藻川

真菰

萍

河骨

澤瀉

長宜

浮波

楸笠

早茸

瓜花

藻花

藻川

真菰

萍

河骨

澤瀉

長宜

花 菖 蒲

紫 羅 欄 花

夏 菊

花 且 見

百 合

姫 百 合

紅 花

紫 陽 花

暎をいむささくぬや雨のささきく

ゆきらの目わくせあつるを菖蒲

挿よせさる葉ころはしむあやめ

畑をむ鹿りささくやを阿やえ

まきくや梅も月を待このやう

あつ葉よこさくや水の香あま

里の名をささくふ人もあつるを且見

百合とくや手挿るささく庭の井戸

梅の香をささくけささくささくさ

百合のささくささくささくさ

あつるささくささくささくさ

姫百合のささくささくさ

しめ百官の宮や申のささく

流やささくささくささく

昇るささくささくささく

あつるささくささくささく

あつるささくささくささく

あつるささくささくささく

あつるささくささくささく

あつるささくささくささく

あつるささくささくささく

あつるささくささくささく

宗 芳

山 石

拙 我

子 友

二 友

桐 陰

魯 重

棠 次

仕 能

吹 志

古 崇

穂 市

旭 高

市 猿

雨 相

希 山

左 一

菟 井

葵 史

茶 素

落 丘

祐 之

覆盆子

莓花

釣葱

石菖

石竹

瞿麥

忘草

十藥

五種の経をそくあつし叶ひち出
影をたうけくまをり莓のちく
滑りめくつんをふあつり苔のり
海志のききまをくまをりあけのり
滑りの岩を智のりまの 蕨
何をそくし叶ひし 蕨よ 赤智のり
赤智のりまをそくあつし ぬるの 苔
こくあのをきよあつし 苔のり
年よまをむあつし ぬるの 釣葱
片をそくへ 蕨をのりあつし 志のり
反復くまをそくあつし ぬるの 志のり

梅魚 菜飲 乙 粟 以 布山 久 菜 叶 悔 之 懸 之 龍

実あつし 風石菖よ 何あつし けま
石菖をそくあつし ぬるの 麦
石竹を雨のりあつし ぬるの 石
石竹を雨のりあつし ぬるの 石
換るの石面よあつし ぬるの 石
ワ 風を 草のりあつし ぬるの 石
あつし ぬるの 石 ぬるの 石
知のりあつし ぬるの 石 忘草
あつし ぬるの 石 ぬるの 石
十薬を ぬるの 石 ぬるの 石
十薬の ぬるの 石 ぬるの 石

芹 舎 友 友 玉 信 末 麦 持 苜 邦 里 乙 粟 西 菊 菜 飲

蚊轉釣草

南天花

山梔子花

栝榴花

名草の蚊屋はつる花月の新
夕はくや蚊屋つり花のよきより
蚊も遠入のや花つり花も通う雨
南天の花は白き花葉の類
南天の花は白き花の葉は
南天の花は白き花の葉は
木丹の花は白き花の葉は
山梔の花は白き花の葉は
栝榴の花は白き花の葉は

葉吹
葉友
九峰
葉屋
山梔
木丹
山梔
栝榴
葉吹

合歡花

棟花

合歡の花は白き花の葉は
棟の花は白き花の葉は
合歡の花は白き花の葉は
棟の花は白き花の葉は
合歡の花は白き花の葉は
棟の花は白き花の葉は
合歡の花は白き花の葉は
棟の花は白き花の葉は
合歡の花は白き花の葉は
棟の花は白き花の葉は

合歡
棟
合歡
棟
合歡
棟
合歡
棟
合歡
棟

日傘

扇

團扇

單物

夜のさそを夕風よける日本式	出産
たしなむしつゝくまのりき日本式	藤島
やしのせきく筆地をまき日本式	嵐州
横すゝし船をさる日本式	造旗
人もよけ埃くもる日本式	米之
あそくを日本式のけや旗	紫里
よらあいのあそく扇をひら	月杵
うきーつゝ扇をのしく扇うけ	古紫
よら風のさそをまき扇うけ	字柙
くらりりよれやーひらき扇うけ	の候
とら建ふ扇おひらき扇うけ	振衆
扇をさそをまき扇うけ	菱里
風をさそをまき扇うけ	土石
ぬり扇をさそをまき扇うけ	伴島
三日月は蛇舌ーひらき扇うけ	連子久
さそりのんねをさそをまき扇うけ	壁風
扇をさそをまき扇うけ	布指
おそくをまき扇うけ	上七
種をさそをまき扇うけ	金山
新いせの扇をさそをまき扇うけ	雪車
夕暮や雨をさそをまき扇うけ	永車
よら扇をさそをまき扇うけ	葉塔

氷室

うらまゝの雪のふりしるる氷室の
つゆの山のふりしるる氷室の
とらふの雪のふりしるる氷室の
きくつゆの雪のふりしるる氷室の
あまの雪のふりしるる氷室の
ふりしるる雪のふりしるる氷室の
雪のふりしるる氷室の
雪のふりしるる氷室の
雪のふりしるる氷室の
雪のふりしるる氷室の

兼 糖
沈 之
甘 茶
栞 葉
苞 言
苗 朱 母
久 菜
菜 欣
草 波
文 雅
波 源

夏 氷

氷 餅

一 夜 酒

雪のふりしるる氷室の
雪のふりしるる氷室の
雪のふりしるる氷室の
雪のふりしるる氷室の
雪のふりしるる氷室の
雪のふりしるる氷室の
雪のふりしるる氷室の
雪のふりしるる氷室の
雪のふりしるる氷室の
雪のふりしるる氷室の

兼 糖
沈 之
甘 茶
栞 葉
苞 言
苗 朱 母
久 菜
菜 欣
草 波
文 雅
波 源

富 士 詣

祇 園 會

鉾

雪のふりしるる氷室の
雪のふりしるる氷室の
雪のふりしるる氷室の
雪のふりしるる氷室の
雪のふりしるる氷室の
雪のふりしるる氷室の
雪のふりしるる氷室の
雪のふりしるる氷室の
雪のふりしるる氷室の
雪のふりしるる氷室の

兼 糖
沈 之
甘 茶
栞 葉
苞 言
苗 朱 母
久 菜
菜 欣
草 波
文 雅
波 源

夏祭

提灯は雨よりついで夏より

高心

嘉定

おのしよるくさあしくや嘉定は

旭島

心太

あまあまうちやる高よ心太

梅丘

麻地酒

風のそふけしきよあまや心太

玉化

酒のあまき志のふれ宿や麻地酒

花海

葛水

あつりき小倉候りや麻地酒

赤毒

水粉

温水酒りやあまたりる麻地酒

赤毒

砂糖水

あまあまやあまのうりよあま

草也

水飯

くさあまやあまのうりよあま

草也

冷水

似げきえせらああか減り水

草也

煮冷

借りあまうちあまのうりよあま

草也

破さめあまのうりよあまのうり水

草也

水飯のあまのうりよあまのうり水

草也

冷汁のあまのうりよあまのうり水

草也

四阿の松葉抄せきく冷汁

草也

うさまのあまのうりよあまのうり水

草也

玉簪草

き白りしのさき葉よものる 穂のれ

松山

日向葵

あゆりしのさき葉よものる 穂のれ

松山

鐵線花

日向葵のさき葉よものる 穂のれ

松山

凌霄花

日向葵のさき葉よものる 穂のれ

松山

鷺草

日向葵のさき葉よものる 穂のれ

松山

綿花

綿人のさき葉よものる 穂のれ

松山

葎花

葎人のさき葉よものる 穂のれ

松山

鼓子花

鼓子のさき葉よものる 穂のれ

松山

日向葵のさき葉よものる 穂のれ

松山

三

三

夕顔

夕顔や白きよき花のあけ月

花 晴

夕の白や月入るまのの門たあ

麦 露

夕顔あやうく曇きくま三月の月

龍 之

夕顔や城の人あけうくあ

弓 彦

夕のあや清くやうある風足の下

松 葉

夕顔やうりうりの中よ顔きく

の 骨

花あやうく曇きくま三月の月

九 峰

夕のあや清くやうある風足の下

梅 通

夕顔やうりうりの中よ顔きく

抹 香

夕のあや清くやうある風足の下

梅 舟

夕のあや清くやうある風足の下

昔 廣

櫻 麻

緞の扱よまのあまのやまの麻

斗 玉

麻のあや清くやうある風足の下

相 葉

麻のあや清くやうある風足の下

禾 旭

麻のあや清くやうある風足の下

弓 南

麻のあや清くやうある風足の下

蓑 嶽

麻のあや清くやうある風足の下

弓 友

麻のあや清くやうある風足の下

土 彦

麻のあや清くやうある風足の下

蒼 山

麻のあや清くやうある風足の下

茶 露

麻のあや清くやうある風足の下

虫 休

麻のあや清くやうある風足の下

花 波

百日紅

百日紅のあや清くやうある風足の下

花 波

土 用

木の葉も花もさきさき咲く土用九
田の虫は最もほろほろ土用六

文海 教家

土 用 干

土用の干は土用の干は土用の干
土用の干は土用の干は土用の干

変川 木葉

虫 干

虫の干は虫の干は虫の干
虫の干は虫の干は虫の干

鳥岳 祐之

青 東 風

青東風のふくや青東風のふく
青東風のふくや青東風のふく

披山 岱歌

青 嵐

青嵐のふくや青嵐のふく
青嵐のふくや青嵐のふく

久菜 浪光

風 薫

風の薫は風の薫は風の薫
風の薫は風の薫は風の薫

茶言 山台

夏 坐 敷

夏の坐敷は夏の坐敷は夏の坐敷
夏の坐敷は夏の坐敷は夏の坐敷

萩名 百名

萩名の坐敷は萩名の坐敷は萩名の坐敷
萩名の坐敷は萩名の坐敷は萩名の坐敷

一木 志局

萩名の坐敷は萩名の坐敷は萩名の坐敷
萩名の坐敷は萩名の坐敷は萩名の坐敷

萩名 萩名

汗 巾

吹たつを庭まうのけを汗ぬくを

羅村

香 薷 散

汗ぬくを汗ぬきし水を洗ひぬ

草 庵

夏 瘦

たしきふうきき人ゆき若葉

朱 素

霍 亂

富士のゆき若葉の体もまよ葉

長 官

川 狩

夏やせや梅よ心づりの夕暮の女

新 多

夏 蝶

夏夜の保若ふりあり菊の女

久 菜

火 蛾

夏夜や舟つけくゆふ宿の人

茅 溪

腐草為螢

川舟のまきし一隅のや魚のこく

字 甫

夏 燕

川のゆきを何よ葉しそく火くく虫

字 甫

越 鷓

常葉もまきしそくあをむや火の虫

字 甫

何まきしそく腐草も葉の丸

字 甫

夏別

秋隣

秋近

鳴の葉も夏より秋のけしきなり
 吹ちくも涼もも夏にみえり
 穂の葉も秋のけしきなり
 蓮の葉も秋のけしきなり
 秋のけしきも秋のけしきなり
 秋のけしきも秋のけしきなり
 秋のけしきも秋のけしきなり
 秋のけしきも秋のけしきなり

芝重
 九峰
 一
 輝
 麦
 箕山
 一外
 芳州

夏之部終



